

# 民報 ゆうばり

# 福島で夏休み相談会開催！

## せめて夏休みだけでも、外で思い切り遊ばせたい！

6月2日・3日の両日、福島県二本松市と伊達市において、「夏キャン&保養移住相談会 in 二本松・伊達」が開催されました。

北は北海道から南は沖縄まで20団体、約50名が相談会に参加しました。中でも北海道が一番多く、4団体が参加。夕張からは、ゆうばり再生市民会議のプロジェクト、被災者支援ネットワーク『夕張夢再生館』の代表三島京子さんが訪れました。

小学生や幼児を連れたお母さんたちなど、100人ほどが訪れました。お母さんたちは、「外で遊ばせられないので、子どもたちはストレスがたまっています。『本当は移住したいけど、夫の仕事、

### 国と東電は、住民・子どもたちの健康に最大限の保障を！



子どもが首から下げている線量の積算



2日(上)の二本松市民交流センターは、二本松駅のすぐ目の前です。

ん・事務局の熊谷桂子議員の二人が参加しました。

夕張では3組の親子を保養に受け入れる予定です。

3日(日)は、伊達市の保原中央公民館。大ホールでは民謡大会が開催されて

男・姑の放射能の知識があまりにも乏しくて、話しても理解してもらえない。『移住はしたいけど、ローンを考えて出ていけない。』「せめて、夏休みの間だけでも、放射能のことを気にせず遊ばせてやりたい。健康になってもらいたい」などと相談していました。

保原駅前には0.54マイクロシーベルト(道内では0.03程度)日曜日という程度)もあり、新聞折り込みのチラシを見て、福島市などからも父母らとともに家族で200人近くが訪れました。

「世話になった男・姑を、病気も持つているのに」おいてはいけないし、二人は絶対動くつもりはない。子どもの今後の健康が心配。『せめて子どもたちだけでも、保養に行かせてやりたい』3泊4日



線量計

当日の朝、伊達の



夏休み相談会場の様子

チェルノブイリの百数十倍の放射線が放出されたといわれる、福島第一原発の事故ですが、事故の重大さや、健康被害の予測について、正確な情報が発表されているとはいえない状況が続いています。

チェルノブイリ原発事故の際は、2年目から病気になる住民が急増しており、今後の住民の健康が心配されます。

# 党と後援会の決起集会開催

6月3日、岩見沢で「党と後援会の決起集会」が開催され、夕張からは7名の後援会員が参加しました。

党南空知地区委員長のあいさつにつづき、十区予定候補者の木村けんじさんが「全国活動者会議」の特徴的な内容を報告しました。

一点日は、昨年11月の4中総で二大政党制が破たんしたことを明らかにしてから、各階層の住民自治、原発、それから消費税問題などでの創造的なたたかいが進展してきていることです。

二点目は、党の三つの政治的探求と努力がはらわれていることです。

東京21区の候補者は自転車で1日5か所70kmを走って、150回の「つどい」を中心にしたたかった経験を報告しました。

三点目は、総選挙で何としても勝つためには、まさに今は奇跡を起こす時期なのだ



という確信を広げることです。

最後に「私もがんばります」と力を込めて決意表明し報告を終えました。

## 「消費税」国会重大局面に

### 街頭演説で訴え!

はたやま、林阿保、木村けんじ



国会の会期末を間近にして、民主党野田政権は自民・公明党にすり寄るかたちで消費税増税を成立させようとしています。

北海道比例候補のはたやま和也さんと10区候補の木村けんじさんは11日、急ぎよ夕張に入り「みんなの力を合わせて必ず阻止しよう」と訴えました。

## 年金者組合主催

### パークゴルフ大会開催

6月9日、南部地区にあるシューパロの里パークゴルフ場で年金者組合主催のパークゴルフ大会が開催されました。曇天で適温のなか、15名が元気にプレーしました。

正午過ぎに競技を終了、成績発表では優勝、準優勝とも南部の女性組合員が栄冠を勝ち取りました。

その後、持参の弁当やおやつを食べながらプレーのことや近況を交流しました。

また、大会終了後も再度プレーする元気な姿も見られました。



## 「人を大事にする経済」



### 日本共産党准中央委員 道政策委員長 畠山 和也の 「かけある記」

志位委員長みずから「消費税増税せず社会保障拡充の道がある」との党の「提言」を説明し、「意見もつかう」「経済懇談会」を札幌でおこないました。農協系統団体、商店街振興組合、中小企業、医療・福祉団体などの役員さん、自治体首長や大学教授など、幅広い方々が足を運んでいただきました。紙面を借りて、あらためてお礼を申し上げます。

当日は「提言」に対する期待の声や、TPP反対での激励、率直な党への注文などの「意見をいただき、とにかく時間が足りなくなるほど。」という懇談会を定期的に」との要望も、ありがたく思いました。

懇談会の前後には、自治体首長さんや道経済界の方との「三懇談」などもおこないました。その中で、道経済界で大きな役割を担っている方から「教育の充実」の要望がありました。経済環境が厳しく正規の仕事もないなかで、それが家庭不和につながり子どもたちの学習面に影響が出ている。エリート教育も大事なんだろうが、どの子どもたちも学べる環境を「それが社会を支える人材の育成にもなる」という主旨なのですが、社会と生活の実態に心を痛めているとの発言を私も重く受け止めました。

子どもたちや生活弱者にとって生きにくいところか、札幌の姉妹孤立死のように命にかかわる事態まで起きています。「経済」とは「経世済民」。「世を経(おさめ)、民を濟(すく)う」こと。しっかりと地に足をつけて、多くの方と語り合います。